

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101884		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームかがやき2号館		
所在地	徳島市八万町橋本80番地		
自己評価作成日	平成25年6月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年7月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

傾聴、共感、笑顔を理念に掲げ職員と共に、出来る範囲で役割を果たして頂きながら生きがいの持てる毎日、個性のある日常生活を送って頂いている。周辺には小学校や幼稚園等がありオープンスクールに参加するなどして地域の住民としての交流を図り、楽しみのある日々を過ごして頂いている。部屋はすべて個室となっており、プライバシーも保てるように配慮している。医療の面でも母体病院が敷地内にあり医療との連携により、利用者や家族の皆様に安心を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の祭りに参加したり、文化祭へ作品を出品したりして、地域との交流を図っている。また、近隣の小学校や幼稚園の行事等にも参加し、地域との関わりを積極的にもつよう努めている。敷地内に同一法人の運営する医療法人があるため、通院やリハビリ、急変時等の医療支援体制が充実しており、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や各ユニットの事務室、リビングに掲げて毎日確認しあい、日々の実践に取り組んでいる。ケアの方法について職員間で話し合いをして統一を図るようにしている。	事業所では、“傾聴、共感、笑顔”の理念を掲げている。職員は、日ごろから確認しあって、理念の共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の文化祭への参加や婦人会のボランティアの受け入れ。また小学校や幼稚園の行事への参加をし地域との交流を図っている。また量販店での買い物を楽しんだり、地元のお祭りにも参加している。	利用者は地域の祭りに参加したり、文化祭へ作品を出品したりして、地域との交流を図っている。また、近隣の小学校や幼稚園の行事等にも参加し、地域との関わりを積極的にもつよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れとして近くの大学生の実習を受け入れたり、運営推進会議を通して民生委員の方ボランティアの方と話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催をするよう取り組んでいる。参加者は利用者の家族代表・民生委員・地域法活支援センター職員・施設責任者・管理者・職員であり活動状況等を議題として意見を交換している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族会の代表、民生委員、地域包括支援センター職員、法人の代表、職員が参加している。事業所から活動状況の報告を行った後、参加者から質問や意見、要望等を出してもらい、地域との交流やサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは定期的な書類の提出や介護認定申請代行時以外に、加算要件等分らない点は連絡し教えてもらったりしており事業所の実情や課題等を伝えている。	月1～2回、市担当窓口へ出向いて介護認定の手続きや報告書の提出等を行っている。分からないことについて相談し助言を得るなど、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し勉強会を行うなどして職員に周知している。原則として身体拘束は行っていない。利用者様の安全に配慮し、玄関に施錠はしているが、利用者様の希望によっていつでも開ける体制はできている。	事業所では、身体拘束の廃止に関するマニュアルを作成したり勉強会を実施したりしている。全職員で身体拘束の内容と弊害について理解しているが、建物の構造上、玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を行い理解を深め、虐待行為の防止に努めている。見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でのバックアップ体制は整っているといえる。対応できるよう職員間でも話題にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとり、丁寧に説明し納得して頂くようにしている。また契約解除時にも家族や本人と話し合い理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の茶話会や運営推進会議で意見を言ってもらっている。その意見をもとにして運営に反映させている。家族には家族会や面会時に要望等があれば何でも言っていたりするような雰囲気作りに留意している。	月1回、利用者と職員で茶話会を実施し、意見や要望を聞いている。また、家族の来訪時や家族会の機会等に意見や要望を表出しやすい機会を設けている。出された意見や要望は、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の法人開催の主任会議で部署の意見をまとめて発表したり、職員からの意見や提案等があれば随時話し合う機会をもうけている。	職員は、悩みや提案等を各ユニットのリーダーに相談している。出された意見や要望は、法人の主任会議の機会に話しあい、運営面に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状を把握している。責任者や管理者が職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格所得に向けて支援し、資格の評価も行い給与水準に反映している。能力にあった定期昇給もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保して、出来る限り多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や外部の研修を通して他施設との交流を図り、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面談を行い心身状態や本人の思いと向き合い、本人や家族の不安を理解出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯やご苦勞をしっかりと聞き受け止め、事業所としてどのような対応をしていくかよく話し合い信頼関係が作れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて必要なサービスの種類(ショートステイ、入居等)説明は行っている。早急な対応が必要な方には可能な限り、柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方から学ぶ事は多くあり、思いを知る事に努め楽しく生活が送れるように心掛けている。職員は常に笑顔で利用者の方と接するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で日々の暮らしや出来事を伝え、情報を共有し共に支えていく関係作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方に協力してもらい馴染みの美容院や、行きつけの喫茶店に行って馴染みの人達と食事を楽しまれたりして、人間関係や社会との関係を断ち切らないようにしている。	家族の協力のもと、馴染みの美容院へ行ったり、友人とともに喫茶店で食事を楽しんだりする利用者がいる。利用者一人ひとりがこれまでに培ってきた関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に自室にてゆっくり話を聞いたり、月1回の茶話会を開催して意見を言ってもらったりしている。孤立する事のないように職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となりサービスが終了した場合でも本人のお見舞いに行き話を聞いたりしている。また家族からの相談も随時のっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を出来る限り優先し可能な限り支援している。また家族からの情報も大切に得るようにしている。本人にとって安心した生活を送れる方法を検討している。	入居時の段階で、利用者や家族から話を聞いて情報を得ている。また、日ごろの関わりのなかから意向を把握し、思いの実現にむけた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本院、家族から聞き取りをしてサービスの利用の経過・把握に努めている。また日々の生活場面に応じて話を聞き、情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムやできること、できないことの把握をしできることを増やしていくよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会等で、本人には日常生活の会話の中で自然に意見を聞き、アセスメントをし職員間で意見交換をしている。カンファレンスを行い介護計画を作成している。	利用者や家族、関係者間で本人本位に話し合い、希望や意見、職員の気づきなどを反映した介護計画を作成している。3か月に1回、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきは個別に介護記録や申し送りノートにその都度記載して、職員は情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況や希望をもとに、職員間で意見を出し合い、柔軟に対応できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員、地域婦人会のボランティア、消防署、教育機関とは協力してもらっている。また地域の文化祭に作品を出展させて頂き見学に行ったりお祭り等にも参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院も含め、本人や家族の希望する医療機関にも状況に応じて対応している。家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨説明し同意を得ている。	利用者や家族の希望に応じ、敷地内の協力医療機関の受診を支援している。眼科や耳鼻科、歯科などの受診は、家族とともに支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連病院との連携を密にし、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。夕方には法人の病院の当直看護師に状態報告を行い日中、夜間の状態変化時の対応に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また家族とも回復状況など情報交換をしながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先しては行っていないが重度化した場合や終末期のあり方について、家族の意向を踏まえたうえでかかりつけ医・もしくは当グループホーム関連病院の医師と相談をしている	利用者や家族の意向を聞いたうえで、かかりつけ医等の関係者と相談し、対応方針の共有化を図っている。しかし、利用者の状態変化に応じて、具体的な支援方針を整備したり、家族や主治医、職員間で協議するまでには至っていない。	看取りの時期のみならず、終末期の支援の一環として、利用者の段階的な心身状態の変化に応じた観察と話し合いを職員や関係者間で重ねて行うなどし、利用者や家族がさらに安心して終末期を過ごすことができるよう取り組まれない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。随時勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て利用者と共に避難訓練をしている。また消火器の使い方や避難時の注意点等を教わり、訓練の意識を高め、地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回、消防署の協力を得て、避難・防火訓練を行っている。法人全体で非常用の食料や物品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの祭に職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応を徹底している。また利用者と呼ぶ時は必ず苗字で呼ぶようにしている。	職員は、入浴や排泄の支援、日ごろの会話時において、利用者の自尊心を傷つけることのないような言葉かけや対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めた事を押しつけるのではなく複数の選択肢を提案して利用者が自分で決める場面を作っている。また意思表示の困難な方には表情を読みとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人一人その日の体調や気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの服装をして、お化粧をする等、日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また馴染みの美容院などがある方は行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて食事の準備や後片付けをして頂いている。食事前のおしぼりを巻いて下さる利用者の方もいらっしゃる。	母体法人の運営する医療機関で献立や食材の準備を行っている。調理は、事業所の職員が交代で行っている。食事の準備や後片づけなどは、利用者一人ひとりの力を活かしつつ職員とともに行っている。利用者の好みのおやつをみんなでつくって楽しむなど、前向きな気持ちを引き出すような場面づくりを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と間食量を把握している。水分補給時も時間毎に行っている。利用者の希望に応じて主食をお粥やパン食にしたり副食をキザミ食等にする工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性をお話し、食後の歯磨きの声掛けや見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	職員は、利用者の排泄パターンの把握に努めている。一人ひとりの些細な仕草に注目してトイレ誘導を行うことで、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。リハビリパンツや尿パットを使用している利用者はいるが、紙パンツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動(体操等)や個人にあった飲み物を等を工夫し自然排便できるよう取り組んでいる。排便困難な方は随時医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、本人の希望に合わせた入浴を支援している。入浴拒否する方には声掛けや時間、職員を変えたりして安心して入浴して頂けるよう対応している。	浴室は広く、機械浴も整備している。入浴を拒む利用者には声かけを工夫し、人形とともに入ったり、入浴剤を使用したりして、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を支援し、生活リズムを整えるよう取り組んでいる。状況に応じて休息を取って頂いている。夜間不眠時は話を聞く等対応し配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、個別ファイルに薬の説明書を整理している。職員が内容を把握できるようにしている。服用時は本人に手渡しをきちんと服用できていることを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人役割を持って頂き、できることはして頂いて生きがいのある生活を送ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時散歩や日光浴を楽しんでもらっている。また茶話会で利用者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	日ごろから、外気浴や散歩に出かけている。利用者の希望に応じて、回転寿司へ行ったり、知人や家族と喫茶店へ行ったりしている。買い物ツアーや遠足等の企画も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談したうえで財布を持って頂いている。またお金を所持していない方でも職員と一緒に買い物に出かけて、本人の好みの物を買ってもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話や手紙のやり取りができるよう家族の協力を得ており、能力に応じて支援している。携帯電話を所持し、家族と自由に連絡を取り合う方もいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	料理を作っている匂い、食器を洗っている音などで生活感を感じて頂いている。居室には馴染みの家具等をおき居心地よく生活できるよう工夫している。	リビングには、七夕飾りや折り紙で作成した朝顔等、季節の飾りつけを行っている。壁面には、利用者の作品や今月の行事予定等を掲示しており、季節を感じつつ居心地良く過ごすことのできる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で話をしたりトランプを楽しんだり、利用者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真を飾ったりしてそれぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	居室は、清潔に整頓している。利用者は、居室にテレビや冷蔵庫、クッションなどの好みの品を持ち込んでいる。写真や手作りカレンダーを飾るなどして、居心地の良さにも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を付けたり、夜間は居室でポータブルトイレや安楽尿器を使用できるようにしたり、必要な声掛け、誘導を随時行っている。			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や各ユニットの事務室、リビングに掲げて毎日確認しあい、日々の実践に取り組んでいる。ケアの方法について職員間で話し合いをして統一を図るようにしている。	理念を玄関や各ユニットの事務室、リビングに掲げて毎日確認しあい、日々の実践に取り組んでいる。ケアの方法について職員間で話し合いをして統一を図るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の文化祭への参加や婦人会のボランティアの受け入れ。また小学校や幼稚園の行事への参加をし地域との交流を図っている。また量販店での買い物を楽しんだり、地元のお祭りにも参加している。	地元の文化祭への参加や婦人会のボランティアの受け入れ。また小学校や幼稚園の行事への参加をし地域との交流を図っている。また量販店での買い物を楽しんだり、地元のお祭りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れとして近くの大学生の実習を受け入れたり、運営推進会議を通して民生委員の方ボランティアの方と話し合いを行っている。	実習生の受け入れとして近くの大学生の実習を受け入れたり、運営推進会議を通して民生委員の方ボランティアの方と話し合いを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催をするよう取り組んでいる。参加者は利用者の家族代表・民生委員・地域法活支援センター職員・施設責任者・管理者・職員であり活動状況等を議題として意見を交換している。	運営推進会議は2カ月に1回開催をするよう取り組んでいる。参加者は利用者の家族代表・民生委員・地域法活支援センター職員・施設責任者・管理者・職員であり活動状況等を議題として意見を交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは定期的な書類の提出や介護認定申請代行時以外に、加算要件等分からない点は連絡し教えてもらったりしており事業所の実情や課題等を伝えている。	市町村とは定期的な書類の提出や介護認定申請代行時以外に、加算要件等分からない点は連絡し教えてもらったりしており事業所の実情や課題等を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し勉強会を行うなどして職員に周知している。原則として身体拘束は行っていない。外部からの侵入者を防ぐ為安全の為玄関に鍵をかけているが、利用者の希望によっていつでも開ける体制はできている。	マニュアルを整備し勉強会を行うなどして職員に周知している。原則として身体拘束は行っていない。外部からの侵入者を防ぐ為安全の為玄関に鍵をかけているが、利用者の希望によっていつでも開ける体制はできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を行い理解を深め、虐待行為の防止に努めている。見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。	勉強会やミーティング等を行い理解を深め、虐待行為の防止に努めている。見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でのバックアップ体制は整っているといえる。対応できるよう職員間でも話題にしている。	法人内でのバックアップ体制は整っているといえる。対応できるよう職員間でも話題にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとり、丁寧に説明し納得して頂くようにしている。また契約解除時にも家族や本人と話し合い理解・納得を得るようにしている。	契約時には時間をとり、丁寧に説明し納得して頂くようにしている。また契約解除時にも家族や本人と話し合い理解・納得を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の茶話会や運営推進会議で意見を言ってもらっている。その意見をもとにして運営に反映させている。家族には家族会や面会時に要望等があれば何でも言っていたりするような雰囲気作りに留意している。	毎月の茶話会や運営推進会議で意見を言ってもらっている。その意見をもとにして運営に反映させている。家族には家族会や面会時に要望等があれば何でも言っていたりするような雰囲気作りに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の法人開催の主任会議で部署の意見をまとめて発表したり、職員からの意見や提案等があれば随時話し合う機会をもうけている。	月2回の法人開催の主任会議で部署の意見をまとめて発表したり、職員からの意見や提案等があれば随時話し合う機会をもうけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状を把握している。責任者や管理者が職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格所得に向けて支援し、資格の評価も行い給与水準に反映している。能力にあった定期昇給もしている。	現状を把握している。責任者や管理者が職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格所得に向けて支援し、資格の評価も行い給与水準に反映している。能力にあった定期昇給もしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保して、出来る限り多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧出来るようにしている。	研修を受ける機会を確保して、出来る限り多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や外部の研修を通して他施設との交流を図り、サービスの質の向上に役立っている。	勉強会や外部の研修を通して他施設との交流を図り、サービスの質の向上に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2	ユニット3	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面談を行い心身状態や本人の思いと向き合い、本人や家族の不安を理解出来るよう努めている。	事前に本人や家族と面談を行い心身状態や本人の思いと向き合い、本人や家族の不安を理解出来るよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯やご苦勞をしっかりと聞き受け止め、事業所としてどのような対応をしていくかよく話し合い信頼関係が作れるよう努力している。	これまでの経緯やご苦勞をしっかりと聞き受け止め、事業所としてどのような対応をしていくかよく話し合い信頼関係が作れるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて必要なサービスの種類(ショートステイ、入居等)説明は行っている。早急な対応が必要な方には可能な限り、柔軟な対応をしている。	相談内容に応じて必要なサービスの種類(ショートステイ、入居等)説明は行っている。早急な対応が必要な方には可能な限り、柔軟な対応をしている。	
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方から学ぶ事は多くあり、思いを知る事に努め楽しく生活が送れるように心掛けている。職員は常に笑顔で利用者の方と接するように心掛けている。	利用者の方から学ぶ事は多くあり、思いを知る事に努め楽しく生活が送れるように心掛けている。職員は常に笑顔で利用者の方と接するように心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で日々の暮らしや出来事を伝え、情報を共有し共に支えていく関係作りを心掛けている。	面会時や電話等で日々の暮らしや出来事を伝え、情報を共有し共に支えていく関係作りを心掛けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方に協力してもらい馴染みの美容院や、行きつけの喫茶店に行って馴染みの人達と食事を楽しまれたりして、人間関係や社会との関係を断ち切らないようにしている。	家族や知人の方に協力してもらい馴染みの美容院や、行きつけの喫茶店に行って馴染みの人達と食事を楽しまれたりして、人間関係や社会との関係を断ち切らないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に自室にてゆっくり話を聞いたり、月1回の茶話会を開催して意見を言って頂いたりしている。孤立する事のないように職員が間に入り支援している。	個別に自室にてゆっくり話を聞いたり、月1回の茶話会を開催して意見を言って頂いたりしている。孤立する事のないように職員が間に入り支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となりサービスが終了した場合でも本人のお見舞いに行き話を聞いたりしている。また家族からの相談も随時のっている。	入院で退居となりサービスが終了した場合でも本人のお見舞いに行き話を聞いたりしている。また家族からの相談も随時のっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を出来る限り優先し可能な限り支援している。また家族からの情報も大切に得るようになっている。本人にとって安心した生活が送れる方法を検討している。	一人一人の希望を出来る限り優先し可能な限り支援している。また家族からの情報も大切に得るようになっている。本人にとって安心した生活が送れる方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本院、家族から聞き取りをしてサービスの利用の経過・把握に努めている。また日々の生活場面に於いて話を聞き、情報を得ようとしている。	入居時に本院、家族から聞き取りをしてサービスの利用の経過・把握に努めている。また日々の生活場面に於いて話を聞き、情報を得ようとしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムやできること、できないことの把握をしできることを増やしていくよう心掛けている。	一人一人の生活リズムやできること、できないことの把握をしできることを増やしていくよう心掛けている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会等で、本人には日常生活の会話の中で自然に意見を聞き、アセスメントをし職員間で意見交換をしている。カンファレンスを行い介護計画を作成している。	家族には面会等で、本人には日常生活の会話の中で自然に意見を聞き、アセスメントをし職員間で意見交換をしている。カンファレンスを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきは個別に介護記録や申し送りノートにその都度記載して、職員は情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の状態や職員の気づきは個別に介護記録や申し送りノートにその都度記載して、職員は情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況や希望をもとに、職員間で意見を出し合い、柔軟に対応できるよう心がけている。	利用者、家族の状況や希望をもとに、職員間で意見を出し合い、柔軟に対応できるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員、地域婦人会のボランティア、消防署、教育機関とは協力してもらっている。また地域の文化祭に作品を出展させて頂き見学に行ったりお祭り等にも参加させて頂いている。	地域包括支援センターや民生委員、地域婦人会のボランティア、消防署、教育機関とは協力してもらっている。また地域の文化祭に作品を出展させて頂き見学に行ったりお祭り等にも参加させて頂いている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院も含め、本人や家族の希望する医療機関にも状況に応じて対応している。家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨説明し同意を得ている。	事業所の協力病院も含め、本人や家族の希望する医療機関にも状況に応じて対応している。家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨説明し同意を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連病院との連携を密にし、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。夕方には法人の病院の当直看護師に状態報告を行い日中、夜間の状態変化時の対応に備えている。	関連病院との連携を密にし、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。夕方には法人の病院の当直看護師に状態報告を行い日中、夜間の状態変化時の対応に備えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また家族とも回復状況など情報交換をしながら速やかな退院支援に結びつけている。	入院時は、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また家族とも回復状況など情報交換をしながら速やかな退院支援に結びつけている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先しては行っていないが重度化した場合や終末期のあり方について、家族の意向を踏まえうえでかかりつけ医・もしくは当グループホーム関連病院の医師と相談をしている	看取りを率先しては行っていないが重度化した場合や終末期のあり方について、家族の意向を踏まえうえでかかりつけ医・もしくは当グループホーム関連病院の医師と相談をしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。随時勉強会も行っている。	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。随時勉強会も行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て利用者と共に避難訓練をしている。また消火器の使い方や避難時の注意点等を教わり、訓練の意識を高めている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	消防署の協力を得て利用者と共に避難訓練をしている。また消火器の使い方や避難時の注意点等を教わり、訓練の意識を高めている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの祭に職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応を徹底している。また利用者と呼ぶ時は必ず苗字で呼ぶようにしている。	ミーティングの祭に職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応を徹底している。また利用者と呼ぶ時は必ず苗字で呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めた事を押しつけるのではなく複数の選択肢を提案して利用者が自分で決める場面を作っている。また意思表示の困難な方には表情を読みとるようにしている。	決めた事を押しつけるのではなく複数の選択肢を提案して利用者が自分で決める場面を作っている。また意思表示の困難な方には表情を読みとるようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人一人その日の体調や気持ちを尊重し柔軟に対応している。	基本的な1日の流れは持っているが、一人一人その日の体調や気持ちを尊重し柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの服装をして、お化粧をする等、日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また馴染みの美容院などがある方は行けるよう支援している。	自分好みの服装をしている。買い物時に化粧品を購入したりクリームを塗るなど、日頃からのおしゃれを楽しんでいる。また馴染みの美容院がある方は行けるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて食事の準備や後片付けをして頂いている。食事前のおしぼりを巻いて下さる利用者の方もいらっしゃる。	一人一人の能力に応じて食事の準備や後片付けをして頂いている。食事前のおしぼりを巻いて下さる利用者の方もいらっしゃる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と間食量を把握している。水分補給時も時間毎に行っている。利用者の希望に応じて主食をお粥やパン食にしたり副食をキザミ食等にする工夫をしている。	食事量や間食量を確認し把握している。水分補給も時間毎に行っている。食事量、水分量が低下している方には声掛けを工夫したり、好みの物を食べてもらったりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性をお話し、食後の歯磨きの声掛けや見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。	口腔ケアの重要性をお話し、食後の歯磨きの声掛けや見守りを行っている。また定期的な歯科受診の通院介助を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	一人一人の排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動(体操等)や個人にあった飲み物を等を工夫し自然排便できるよう取り組んでいる。排便困難な方は随時医師に相談している。	毎日の運動(体操等)や個人にあった飲み物を等を工夫し自然排便できるよう取り組んでいる。排便困難な方は随時医師に相談している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、本人の希望に合わせた入浴を支援している。また機械浴を導入しており立位の不安定な方でも安心して入浴して頂いている。	職員が一方的に決めず、本人の希望に合わせた入浴を支援している。入浴拒否する方には声掛けや時間、職員を変えたりして安心して入浴して頂けるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を支援し、生活リズムを整えるよう取り組んでいる。状況に応じて休息を取って頂いている。夜間不眠時は話を聞く等対応し配慮している。	なるべく日中の活動を支援し、生活リズムを整えるよう取り組んでいる。状況に応じて休息を取って頂いている。夜間不眠時は話を聞く等対応し配慮している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、個別ファイルに薬の説明書を整理している。職員が内容を把握できるようにしている。服用時は本人に手渡しをきちんと服用できていることを確認している。	服薬に関しては、個別ファイルに薬の説明書を整理している。職員が内容を把握できるようにしている。服用時は本人に手渡しをきちんと服用できていることを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人役割を持って頂き、できることはして頂いて生きがいのある生活を送ってもらえるよう支援している。	利用者一人一人役割を持って頂き、できることはして頂いて生きがいのある生活を送ってもらえるよう支援している。また感謝の言葉を伝えるようにしている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時散歩や日光浴を楽しんでもらっている。また茶話会で利用者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	随時散歩や日光浴を楽しんでもらっている。また茶話会で利用者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	ユニット3 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談したうえで財布を持って頂いている。またお金を所持していない方でも職員と一緒に買い物に出かけて、本人の好みの物を買ってもらっている。	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談したうえで財布を持って頂いている。またお金を所持していない方でも職員と一緒に買い物に出かけたり毎週来てくれている売店にて本人の好みの物を買ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話や手紙のやり取りができるよう家族の協力を得ており、能力に応じて支援している。携帯電話を所持し、家族と自由に連絡を取り合う方もいる。	希望に沿って電話や手紙のやり取りができるよう家族の協力を得ており、能力に応じて支援している。携帯電話を所持し、家族と自由に連絡を取り合う方もいる。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	料理を作っている匂い、食器を洗っている音などで生活感を感じて頂いている。居室には馴染みの家具等をおき居心地よく生活できるよう工夫している。	料理を作っている匂い、食器を洗っている音などで生活感を感じて頂いている。居室には馴染みの家具等をおき居心地よく生活できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で話をしたりトランプを楽しんだり、利用者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。	気の合った人同士で話をしたり、かるた・DVD鑑賞を楽しんだり、利用者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真を飾ったりしてそれぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真や利用者が作られた作品を飾ったりしてそれぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を付けたり、夜間は居室でポータブルトイレや安楽尿器を使用できるようにしたり、必要な声掛け、誘導を随時行っている。	目印を付けたり、夜間は居室でポータブルトイレや安楽尿器を使用できるようにしたり、必要な声掛け、誘導を随時行っている。	